

2023年 ランディー・バース氏殿堂入り特別展示

1986年と87年、2年連続三冠王に輝いた、タイガース史上最強の外国人選手と言われ続けるランディー・バース氏は2023年に野球殿堂入りし、再び球界にその名を轟かせた。

米国オクラホマ州出身のバース氏は6年間(83年～88年)NPBの阪神タイガースに在籍した後、アメリカへ帰った。現在は故郷に屋敷を構えている。

1月に野球殿堂博物館で行われた殿堂入り通知式の際に公開したバース氏のzoom映像は、博物館とバース氏の自宅を繋いで収録したが、映った部屋には、バース氏の野球人生を物語る数々のトロフィーや盾などが飾られており圧巻の様子であった。インタビューが部屋について尋ねるとバース氏はそれらを快く映して解説してくださった。

その一部が、海を超えて、野球殿堂博物館に展示された。

写真は「2023年野球殿堂入り特別展」(10月1日で終了予定)の様子である。上から「阪神 ユニホーム(2004年OB戦用のレプリカ)」「1986年 三冠王記念プレート」「阪神時代(1987年) 使用ファース

トミット」【阪神時代(1987年) 使用バット】。当館所蔵のファーストミットとバットはNPB時代に球団を通じて寄贈されたものである。三冠王の記念プレートについて少し紹介すると、縦横共に51.5cm、厚み6cmの非常に重厚感のある作りになっている。外側は木枠で囲われ、中には銀色のプレートがはめ込まれており、文字が彫刻されている。上部には金色で「1986 三冠王TRIPLE CROWN」とあり、その下に筆記体で「Randy William Bass」と、記録「打率.389 本塁打47 打点109」が並ぶ。

中央には金色の野球ボールがあしらわれ、さらにその中央にはセ・リーグのロゴがデザインされている。その両サイドを月桂樹の葉がふわりと囲む。

プレート下半分には、銀色の文字で「IN RECOGNITION OF SUSTAINED EXCELLENCE OF PERFORMANCE」「CENTRAL LEAGUE」「川島廣守」(金色)「PRESIDENT」とあり、この賞は当時のセントラル・リーグ会長、川島廣守氏より贈られたのだとわかる。

モノの力は偉大であり、バース氏が使用したも

の触れたものを間近でみると、その気迫や物語が伝わってくるようである。

1年間で1番混み合い、賑わいを見せる夏休みを終えた博物館は、9月以降少し落ち着いた雰囲気になっている。いまこそ野球と、モノとじっくり対話する時期なのではないか。「2023年野球殿堂入り特別展」は10月1日(日)までの会期を予定しているため見ることはできないが、18年ぶりのリーグ優勝を果たした阪神タイガース、現役選手の用具は「プロ野球TODAY」のコーナーに、1987年三冠王のバース氏のバットは「球史に残る名選手」のコーナーに展示されている。

その他にも魅力的なモノがたくさん展示されている博物館にぜひ足を運んで見に来ていただきたいと思う。

公益財団法人
野球殿堂博物館
学芸員 太田若葉

